

目次

はじめに	7	サモワール	70
アトホーム	10	サロン	74
アフターディナーティー	11	サンドウィッチ	78
アフタヌーンティー	18	磁器	82
温室(コンサバトリー)	22	持参金	86
女主人	26	シノワズリー	90
会話	30	ジャボニスム	94
家政本	34	シュガートング	98
カントリーハウス	38	使用人	102
喫茶店	42	スロップボウル	106
銀器	46	チャールズ・グレイ	110
クローゼット	50	茶道具	114
紅茶占い	54	ティーアーン	118
コーヒーハウス	58	ティーエチケット	122
子供用の茶道具	62	ティーガーデン	126
砂糖	66	ティークリッパー	130
ティーケトル	134		
ティーサーヴィス	138	東インド会社	198
ティーストレイナー	142	ピクニックティー	202
ティースプーン	146	ファミリーポットレート	206
ティーセット	150	ブルー&ホワイト	210
ティーツリー	154	ブレックファスト	214
ティートレイ	158	バッドティー	218
ティードレス	162	訪問客	222
ティーブレイク	166	ポットレート	226
ティーボウル	170	密輸茶	230
テーブルフラワー	174	ミルクティー	234
ドローイングルーム	178	持ち方	238
ナーサリーティー	182	緑茶	242
庭	186	ロタンダ	246
バター付きのパン	190	おわりに	251
万国博覧会	194	参考文献・図版出典	253

使用人の持つトレイには、マフィンデッシュと呼ばれるドーム型の蓋付きの器がのっている。中には熱々のマフィン、または克蘭ベット（英国発祥のパンケーキ）が入っているのだろう。

待ち受ける女主人は、ティーカップに注いだ紅茶に砂糖を入れようとしている。銀色のシュガーボウルの中には角砂糖が盛られている。塊で販売されている砂糖を、彼女が砕いたのだろうか。砂糖をつまむ「シュガートング」は、長らく女主人の象徴的なアイテムとされ、ゲストは勝手に触れてはいけないものだった。アンティーク市場に残されている多くのシュガートングには、所有者のイニシャルが刻まれている。

サトウキビから作られる砂糖の塊は、長く富の象徴だった。しかしこの頃からヨーロッパでは、甜菜糖の出現により砂糖の価格が下がっていった。そうすると、今まで誇らしかった塊の砂糖を家庭で砕く作業が、今度は家事の悩みの種となる。

その悩みを解決し、砂糖の消費拡大に貢献をしたのが、砂糖王ヘンリー・テートが提案した「角砂糖」だ。テートは20歳で食料品店を起業する。その後1859年に砂糖精製会社ジョン・ライト&Co.とパートナー契約を結ぶ。そして1875年に、ドイツ人の発明家オイゲン・ランゲンから角砂糖製造の特許を取得した。テートは角砂糖製造のオペレーションを

確立させたのだ。使いやすい大きさに加工された角砂糖の登場は、台所に革命を起こした。

角砂糖の売り上げにより莫大な資産を保有したテートは、新進画家たちの作品を蒐集する。私設ギャラリーを造り、毎週日曜日に一般の人々に開放した。質の高い美術品が彼の手元に集まるにつれ、テートはより多くの人に鑑賞してほしいと願うようになる。

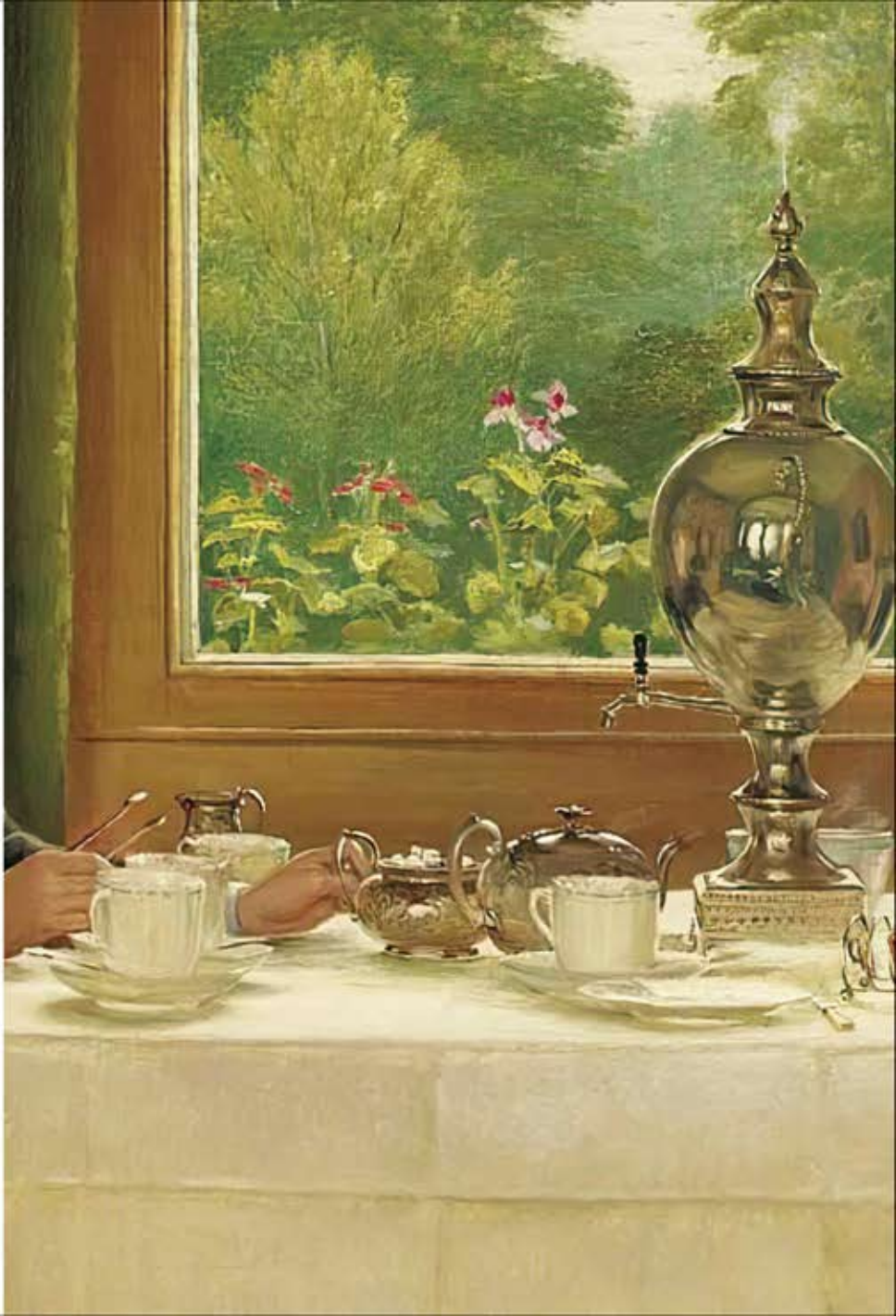
1889年、テートは、ジョン・エヴァレット・ミレイの代表作《オフィリア》を含む、65点の作品をナショナル・ギャラリーに無償で提供すると決める。しかしナショナル・ギャラリーは所蔵スペースの問題と、現代美術への関心の薄さから彼の申し出を断った。テート

は新聞社と連携し、新美術館設立のために尽力する。ナショナル・ギャラリーを説き伏せ、分館「ナショナル・ギャラリー・オブ・ブリティッシュ・アート」を開設させたのだ。この美術館は現在、近現代美術コレクションを所蔵・管理する組織「テート・ギャラリー」として活動を続けている。

角砂糖を英国国民の生活に根づかせたテートの名は、砂糖王として今でも語り継がれている。この絵は個人蔵だが、作者のジョージ・ダンロップ・レスリーの作品の多くが、テート・ギャラリーに所有されているのも、この時代ならではのことだ。



ジョージ・ダンロップ・レスリー  
《アフタヌーンティー》  
1865年、個人蔵



18世紀後半、中産階級以上の家庭に登場したのが子供部屋「ナーサリールーム」だった。ナーサリーという言葉は、現在は保育所、そして植物の苗を育てる農家をさす。古い英語では、子供部屋を意味した。子供たちはナーサリールームで、ナースと呼ばれた乳母に身辺の世話をされ、散歩以外の時間をそこで過ごした。子供たちがパブリックスクールに通うか、家庭教師が付くまでの間、ナースは子供を育てしつける、極めて重要な任務を負った。

ナースは遊びの中で茶会のエチケットを身につけさせる「ナーサリーティー」の指導もした。子供たちが18歳になった時に、どの茶会に呼ばれても恥ずかしくない、そして簡単な茶会を主催できるノウハウをしつけるのだ。

ウィクトリア朝以降の教育者は、人形遊びを強く推奨した。そのため、子供たちは、人形遊びやドールハウスを使い、遊びの中でティータイムの疑似体験をした。バーネット作の「小公女」の物語にも、主人公のセーラの遊び相手としてエミリーという名の人形が登場する。セーラとエミリーは揃いのオートクチュールのコートを身にまとい、まるで姉妹のように描かれている。

絵の中の少女も、人形を相手に茶会の実践をしている。ゲストの位置づけである人形には、人形専用の椅子があてがわれている。白いリネンのティーマットを敷き、その上には茶菓子



ジョージ・バーナード・オニール  
《内緒のお茶》

1880年代、ウォルヴァーハンプトン・アートギャラリー



も置いている。女主人役の少女は、人形のための小さなティーカップに、はにかみながらも慎重にお茶を注いでいる。

推理小説家のアガサ・クリステイも、少女時代「アガサのお茶会よ」と言って、テーブルクロスをかけた机の下でおままごとをしたそうだ。

ナーサリーティーは時には「夕食」の時間にも行われた。上流階級の家庭では、子供は両親と食事を共にすることはなかった。中産階級の家庭でも、朝食以外の食事は子供だけでとった。子供たちの食事はナースがナーサリールームに運んだのだ。

アフタヌーンティー代わりのお茶の時間には、ビスケット、ショートブレッド、カップケーキなどの甘いおやつが提供された。軽い夕食としてのティータイムには、バター付きのパンやサンドウィッチ、マフィン、克蘭ベット、ビーフティー（いわゆるコンソメスープ）も用意された。子供の夕食は「ティーミール」を略して「ティー」とも呼ばれた。

キャロル作の「不思議の国のアリス」のラストシーンは、夕刻アリスが不思議の国の夢から目覚め、お茶をしに家路を急ぐシーンで終わる。もちろんこのお茶は夕食のことだ。

陶磁器に施された美しい青の染料は、中国や日本で「呉須」と呼ばれている。素焼きした素地に呉須で絵付けをし、上から釉薬をかけて高温で焼く。高い熱で焼くと釉薬は透明になって、素地に描いた青い文様を引き立たせる。高温の中にあっても安定した色を出せるのが呉須の特徴だ。他の染料では、高温に耐えきれず色が飛んでしまう。17世紀のオランダで描かれた静物画には、このような「ブルー&ホワイト」の食器を描いた作品が数多く残されている。富を演出する小道具の一つでもあった。

ヨーロッパには磁器を焼成する技術がなかったため、ブルー&ホワイトの模倣はまず陶器で行われた。1653年、オランダのデルフトに陶器会社ボースレン・フレスが創業する。ほぼ同時期に20ほどの陶器窯がデルフトに立ち上がり、それらの食器はデルフト焼として知られるようになる。その特徴はもちろん陶器に手描きされたブルー&ホワイトの絵付けだ。美しい青はデルフトブルーとして王侯貴族に愛された。特に東洋では製造されていなかった

タイルは、建築建材としても重宝された。

1709年にヨーロッパで初めて磁器が焼成されると、磁器でもブルー&ホワイトを作るようになる。1730年頃にスウェーデンの化学者ゲオルグ・ブランドが、呉須が鉄族元素の一つだと発見し「コバルト」と名付けた。以来、コバルト鉱石から青の顔料を化学的に合



ジョージ・ダンロップ・レスリー

《お茶》

1894年、不明



成できるようにになった。磁器のブルー&ホワイトの器が誕生すると、王侯貴族の趣味はデルフト焼から離れてしまう。しかし陶器のブルー&ホワイトは、その後中産階級、労働者階級向けに発展する。1784年、英国のスポード窯が銅版転写による下絵付けの技法を開発し、量産を可能にした。

1790年頃に考案された悲しい恋人たちの物語を描いた「ウィローバターン」の絵柄は広く愛された。ウィローは柳の意味で、柄の中央に描かれていたことからそう呼ばれた。

この柄には逸話がある。中国の官吏の娘が家人の若者と許されぬ恋に落ち、娘は楼閣に閉じ込められてしまう。父は娘を大公と結婚させようとした。結婚式当日、若者は屋敷に侵入し娘を連れ逃げる。父は逃げる二人を追った。中州の粗末な家に逃げた二人は一時幸せな時を過ごすも、娘の婚約者の大公の怒りに触れ、命を落とす。神は哀れな恋人たちを二羽の鳥に変えた……、そんな物語だ。モンゴメリ著「アンの青春」の中にも、ウィローバターンの皿が登場する。

絵画に描かれているティーセットは陶器のブルー&ホワイトだ。柄は山水画のように見える。この絵が描かれた1894年には、天然の顔料であるコバルトに対して、人工の酸化コバルトが普及していた。鮮やかで安価な酸化コバルトは、ブルー&ホワイトの普及に大きな役割を果たした。絵の中に描かれたティーセットもそんな作品の一つである。